

新東名
[愛知県]



自然と
人をつなぐ
道づくり



新東名高速道路の浜松いなさジャンクション(JCT)〜豊田東JCTは、二〇一五年二月に開通しました。開通により、東名高速道路の音羽蒲郡インターチェンジ(IC)〜豊田JCT間の渋滞緩和や、流通の促進などが期待されます。

この区間は自然豊かな地域を通過するため、建設にあたり生物多様性に配慮した様々な取組みを行ってきました。その取組みの一部を紹介します。

1 希少植物の移植

工事前の自然環境調査で、コクランやヒメカンアオイなどの希少植物が発見されたため、工事の影響のない場所に移植しました。

移植先は、日陰ができるように日よけ



コクラン



ヒメカンアオイ



キンラン



移植作業の様子

ネットを設置し、なるべく元にあった場所と同じ林内環境になるよう工夫しました。現在は移植先で良好な生育を確認しています。

3 魚類の保全

工事前の河川環境調査で、絶滅危惧種であるホトケドジョウとナガレホトケドジョウが確認されました。ホトケドジョウは、水温が低く流れの緩やかな河川や湿地に、ナガレホトケドジョウは溪流に生息しているため、生息環境が

※特に愛知県の岡崎市以東に分布するホトケドジョウ属魚類は、DNA解析により系統が異なる別種であるため「トウカイナガレホトケドジョウ」という和名が与えられています。



移植の様子



ホトケドジョウ



ナガレホトケドジョウ※



アマゴ



代替えの水路の様子



近い近隣河川や新しく造成した代替えの水路へ移植しました。また、アマゴなどの魚類に配慮して、代替えの水路を階段状の構造にし、河床には自然石を敷き込み、水が溜りやすく流れが緩やかになるように工夫しました。工事の後も、アマゴなどの生息が確認されています。

2 大型樹木の移植

管理上、伐採することになったケヤキの大木を有効活用し、豊田東JCT内に移植しました。大木であったため、移植作業には工夫が必要でしたが、今ではJCTのシンボルとして良好に生育しています。



現在、本線から見えるケヤキ(右の3本)

4 水生昆虫の移植

ヒメタイコウチは、東海地方に生息する絶滅危惧種に指定された水生昆虫です。泳ぐときに前足を太鼓を打つように左右交互に動かすことからその名が付いたそうです。湧水が染み出す浅い水辺に生息し、飛ぶことができません。ごく限られた環境にしか生息できない不思議な昆虫です。工事前の調査で、そのヒメタイコウチが確認されたため、工事の影響を受けない場所へ移植しました。その後も生息が確認されています。

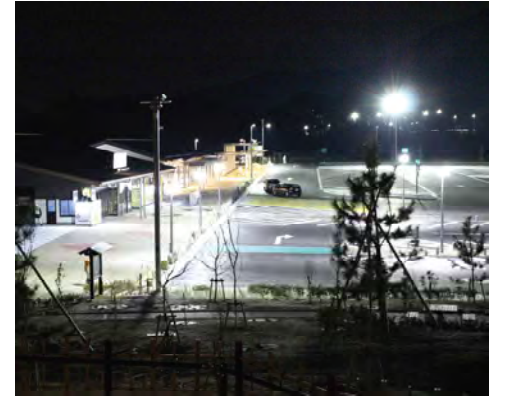


ヒメタイコウチの移植の様子



ヒメタイコウチ

5 全ての照明にLED採用



LED照明点灯の例

道路やトンネルの照明は、全てLED照明を採用しています。
LED照明は従来の照明よりも誘虫性が低く、鳥類のエサとなるガなどの昆虫の誘引を低減することができるため、衝突事故を防ぎ生態系の保全につながります。また、LED照明にすることで、従来の照明を使用するよりも節電をすることができます。

6 現場発生材の有効活用

工事では土や石、木材などが発生します。新東名では、写真のようなユニークな形をした石も発生しました。これらは、岡崎サーブリエリア(SA)の修景用に活用しています。



発生した石



石を利用したロックガーデン

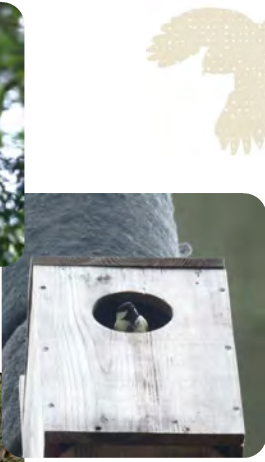


石を利用したベンチ

7 巣箱の設置

岡崎SAでは、周辺の動物を呼び込み、お客さまにも周辺山々の自然を楽しんでいただくために、巣箱を十箇所程度設置しました。

巣箱には、シジュウカラなどの鳥類だけでなく、ムササビが巣箱を利用する様子が確認されています。



シジュウカラが巣箱を利用している様子



巣箱の中の様子(シジュウカラの卵)



ムササビが巣箱を利用している様子



巣箱設置の様子



8 新城市さくら再生活動との協働

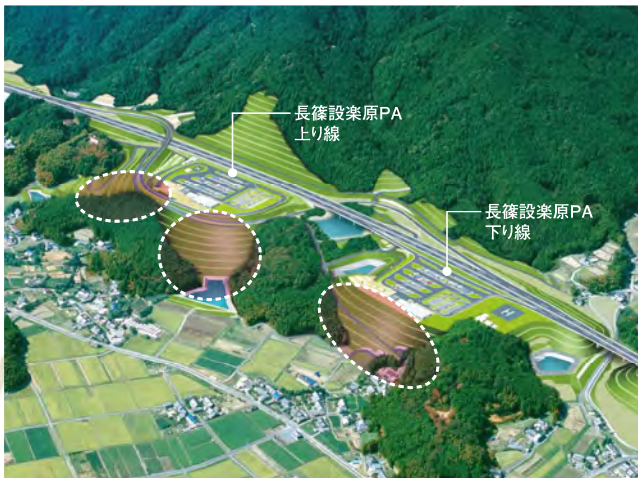
二〇〇七年から、愛知県新城市内のさくら再生活動（一〇〇万本の桜プロジェクト）と協働しています。これまでに、新東名の長篠設楽原PA付近に地元の中学・高校生や企業の皆さんと一緒に約七〇〇本のヤマザクラを植樹しました。ヤマザクラの苗木は、地元の学生さんが種から育てたものです。ヤマザクラが満開に咲き誇るまでにはまだ数年かかりますが、ぜひ楽しみにしてください。



地元高校生との植樹の様子



長篠設楽原PAの植樹箇所



これまでの植樹内容

実施年月	植樹協働団体	植樹本数	植樹場所
2007年4月	「100万本の桜」プロジェクト設立		
2008年2月	SWRしんしろ	約200人 約200本	東名のり面5ヶ所
2012年10月	新城高校	約600人 約150本	長篠設楽原PA(下り線)付近のり面
2013年10月	新城東高校	約500人 約120本	長篠設楽原PA(上り線)付近のり面
2014年2月	新城中学校	約80人 約100本	
2014年3月	JA愛知東	約200人 約120本	

9 「地域性苗木」による樹林化

地球温暖化の抑制や生物多様性保全のため、高速道路のり面の樹林化を積極的に進めています。建設現場ではあらかじめ、周辺に自生する樹木の種子を採取しておき、その種子から育てた「地域性苗木」をのり面に植樹しました。地域性苗木は、市場で流通していない地域に自生している樹種を植えることができ、他の地域の植物との交雑を少なくすることが出来ます。地域が本来持っている種と遺伝子レベルの生物多様性を守ることができます。新東名の浜松いなさJCT〜豊田東JCT間全体で、約六万本の地域性苗木を植栽しました。



地元中学生が種取りをする様子

10 トヨトミナシの保全

建設地内には、地元で「トヨトミナシ」と呼ばれるマメナシの古木があります。梨の原種であるマメナシは絶滅危惧種に指定されており、愛知県岡崎市の天然記念物として大切に守られてきました。その古木から種を取り、育成したトヨトミナシの地域性苗木を、岡崎東ICや岡崎SA内に植樹すると共に、のり面には地元中学生の皆さんと一緒に植樹しました。

11 JHEPの認証取得

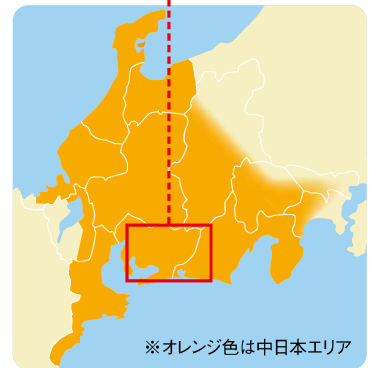
新東名の愛知県豊川市から新城市の約三〇キロのうち六地区で、高速道路事業で初めて生物多様性への取組みを評価する「JHEP」認証を取得しました。JHEPは公益財団法人日本生態系協会が認証するもので、生物多様性の豊かさが事業前より、事業後の方が上回る場合に認証されます。今回、「地域性苗木」の活用等が評価され、認証を取得することができました。



JHEP認証書の一部



これからも「生物多様性に配慮した取り組み」を
行っていきます



中日本高速道路株式会社

名古屋市中区錦 2-18-19
三井住友銀行名古屋ビル 〒460-0003
TEL:052-222-1620
<http://www.c-nexco.co.jp>

